

開かれた日中関係をめざして

廖承志氏を団長とする中国・中日友好協会訪日代表団は、相互理解と友好親善という大きな成果をあげて帰国したが、同代表団の側面の意義、これからの日中関係のすみ方、あわせて現在の中国の方向などについて、東京外語大助教授の中嶋嶺雄氏と、民社党国際局長の河村勝氏とで話合ってもらった。

助外大中嶋嶺雄氏



本質論議避けるな 懸案事項の解決へ 確認癖にも問題が

河村 航空協定は通常の経済協定と違って政治的ウェイトが高いから、いろいろ問題が出たと思いが、決定的な問題は、中嶋 やはり台湾航路の問題でしようね。国交正常化の際、台湾と外交関係は断つが実務関係は残すという説明がどこまであったか、日台協約が存在した意味をどう説明したか。あのプロセス(経過)では全部断つてたと思えて、それが航空協定で出てきたわけで、中国との交渉にはそういう本質的な問題を懸念する人はじめからキチンとどうして取決めていく必要がある。そのへんが根本問題でしよう。

河村 そうでしようね。アメリカでは台湾の大使館と中国の連絡事務所が併存している。そのへんのケースは冷戦時代に固めてあるんですね。中嶋 アメリカの政策はフンチャイナ・パット・ノット・ナウ(中国、中国ではない)ですね。



民社党国際局長河村勝氏

河村 先日帰国した中国の訪日代表団には、オーソドックスな目的のほかに中ソ対立を反映しての意味があったと思うんですが、どうですか。中嶋 廖承志さんはじめ彼らは二十年前の日本の変化を知りたい、日本を知りたい、欲求が非常に強い。また鄧小平の復活を含む文化大革命以降の中国の政治の変化と密接な関係を持つ代表団であり、主要メンバーは当然とると思う。視察はただたんに広がりつつあると思えます。中ソ対立から連帯も中国も対日接近の

急がれる外交姿勢の確立と展望

競争をしている状況がありますからね。それで日本がいい気になってはいけません。河村 一方日本側にはグローバルな外交戦略がない。対中国政策に固執し不動のものがない、その場その場で適当に動いてる印象が強いですね。中嶋 連帯が対日接近に懸命なとき、どこにまで適当なことをいって、結局非常なマイナスになるんじゃないか。中嶋 橋本通りですね。その中で本質的な問題が残ってる。

定着した現実路線

中国の文革当時とは激変
政治情勢

河村 最近鄧小平が、そしてかつて実権を握った人々がほとんど復活しました。これが一連の事柄を背後に、文化大革命路線が今後どう推移しますか。中嶋 鄧小平復活は大きな意味を持つと思います。中国の最近の政治の変化を、文化大革命当時と一八〇度違った方向に向き出したものと確認できるかできないかによって、その意味をどう掴むかという重味が通つてくる。日本では文化大革命が依然として継続しているとか、毛沢東の論理がいついかなる方向に向いていくか、あるいは中国自身はすでに脳変革をはじめているんですね。それを推進しているのが周恩来さんで、そういう見方からすれば、中国は理想である文化大革命を忘れたとする雰囲気があり、マオは面はすべて林彪の陰謀という論理になってる。鄧小平は國務院副総理として復活したけど彼は党官僚であり、彼を復活させるを得ない状況が今の中国政治の主流にあった。つまり周恩来が鄧小平の復活をサポート(支持)した。ならば今後文革の後遺症をいよいよ中国を再建していくうえで、十回大会に至る党の組織づくりに大きな役割を持つのではないかと。何も毛沢東の幹部政策が温情的だった、文革が深まったからじゃないか、逆の要因があるんですね。

河村 現実主義路線は定着するとしても、民族解放闘争を遂行して進めるという道は残っているわけで、それが今後どう変化するかはどうか。中嶋 すでに変化が出ると思いますが。中国は最近革命外交をあまりいなくなつて、それより多面的な外交政策を中国の戦略が東南アジアに力点を投じているんじゃないか。最近はその国の政府との関係を対等関係のうえから



外交戦略乏しい日本

東南アはもっと現実的

河村 現実主義路線は定着するとしても、民族解放闘争を遂行して進めるという道は残っているわけで、それが今後どう変化するかはどうか。中嶋 すでに変化が出ると思いますが。中国は最近革命外交をあまりいなくなつて、それより多面的な外交政策を中国の戦略が東南アジアに力点を投じているんじゃないか。最近はその国の政府との関係を対等関係のうえから

反映する中ソ対立

し、実務協定でもいろいろ難航して、日本の経済力を必要とする。それ日本側がどう応ずるか、田中内閣の訪中外交がアメリカと決定的に違ふのは、中国の事情を研究し中国政策をキメキメと立案して、そのうえストラトジー(戦略)で日中関係の打開が成るというより、非常ラッキーな争をするかといは、中ソ連帯の事情に乗った形なんです。今後はどう、非連帯の間で、中国側は中国封じ込め政策の一つ、中国ベリヤ、チベット油田開発を進め、何となくそれを突破しようとする。中ソ双方の間に日本がなる危険が対ソ構想の上からも国防の問題があるんで、周恩来に頼書を送った

中国の対日政策に

から今度はブレシネフとの間に閣僚会議があるか、中国とどうするか、両方に手をさしやるのは、主権でも削られて、主権日相見外して、その場限りの話。うまいこと、限りの話。国際的な日本の地位、マ地位からして、日本自身勢をキチンと構想したくない、問題が解決しなくてもいいかなど、河村 二の間の火